

〈一般投稿論文〉[研究論文]

LINE チャットの会話における感動詞の分析 —日本語母語場面と日韓接触場面の比較を通して—*

楊 虹・倉田 芳弥

鹿児島県立短期大学・拓殖大学

This paper analyzed the interjections used in LINE chat conversations comparing the Japanese native situation and the Japanese-Korean contact situation in Japanese language. The results showed that various forms of new interjections were observed in both situations and the participants creatively used the interjections to express their feelings in minute detail. The results of this study highlight the influence of the text chat medium on the use of interjections, and the interaction between participants in the Japanese-Korean contact situation.

キーワード：感情表出、感動詞のバリエーション、肯定的・否定的、遊戯的な使用

1. はじめに

デジタル機器の普及により、コミュニケーションのツールの一つとして、日本では LINE による文字チャット（以下 LINE チャット）が広く利用されている。LINE チャットは、人間関係のつながりが強いメディアとして、日本人同士だけでなく、日本語母語話者と非母語話者による接触場面での使用も増え、異文化間の人間関係の構築や維持に大きな役割を果たしている。そのため、日本語母語場面のみならず、接触場面の LINE チャットの特徴の解明も必要だと考えられる。

LINE チャットの会話では、お互いの表情が分からず、声のトーンなども伝達されないため、気持ちや感情の伝達にスタンプや絵文字等ビジュアル的な要素が多く用いられ、また、相づち、擬態語・擬声語、感情を表す感動詞等、話し言葉の要素もよく見られる（岡本 2016）。感動詞は、感情を伝える便利な方法の一つであるが、発話のイントネーションや声の調子によって相手に伝わる意味や感情が異なるため、文字チャットにおいて感動詞

* 本研究は、JSPS 科研費課題番号 16K02803 及び JSPS 科研費課題番号 21K00619 の助成を受けたものです。また、主査及び査読の先生方には貴重なご指摘とご助言をいただきました。心より感謝申し上げます。

を用いて表された気持ちは必ずしも意図したとおりに相手に伝わるとは限らない。場合によっては、誤解を引き起こしてしまう可能性もある。これまで LINE チャットで用いられる感動詞については、声を生み出し、雑談している雰囲気を作る方法の一つである（岡本 2016）との言及にとどまっており、感動詞そのものを取り上げた研究はほとんど行われていない。本研究は、日本語母語場面と接触場面という二つの場面の 1 対 1 の LINE チャットを取り上げ、両場面の会話に見られる感動詞を分析し、両場面の感動詞の使用の異同について明らかにしたい。

LINE チャットの会話はメディアを介した相互行為である。本研究は、相互行為において何が起きているかを記述し分析することにより社会や人間の在り方を捉える相互行為の社会言語学を理論的枠組みとして援用する。相互行為の社会言語学の創設者、Gumperz (1982) によれば、相互行為の参加者は「関与 (involvement)」を維持するために、進行中の活動をどのように認識しているか、前後の文脈とどのように関連しているか、自分の発言がどのように受け取られるかについて、互いに文脈化の合図 (contextualization cue) を送り、解釈するという。文脈化の合図には、テンポ、音量等韻律的なものから、語彙の選択や文体レベル等言語表現、ターンテークングや相づち等談話管理の装置、言葉遊び等のような冗談のリフレーミング装置まで様々なレベルが含まれる (Tannen 1989; Norrick 1994 他)。LINE チャットでは、テンポや音量等韻律的なものが伝わりにくいですが、感情表出の感動詞は参加者が自分の態度を示すという重要な役割を果たすため、積極的な関与を示す「文脈化の合図」の一つと捉えられる。本研究では、相互行為の社会言語学の視点から、日本語母語場面及び接触場面における感動詞の分析を通して、両場面の参加者の会話への関与のしかたを議論し、メディアを介した異文化間コミュニケーションへの示唆を得たい。

2. 先行研究

2.1. 感動詞の研究

感動詞は、文の構成要素から独立して用いられるものであり、感嘆詞やフィラー等、研究によって異なる用語が用いられる。日本語の感動詞については、個別の感動詞を分析し、考察する研究が多く（友定 2015; 田窪・金水 1997; 富樫 2001, 2012; 森山 2015 他）、感動詞全体を俯瞰した研究は少ない（森山 1996）。

感動詞の感情表出の用法に着目して感動詞を分類し考察した研究に、森山 (1996)、楊 (2018) がある。森山 (1996) は「情動的感動詞」という用語を用い、楊 (2018) は、「感情表出の感動詞」を用いている。森山 (1996) は、情動的感動詞を中心に感動詞の包括的な考察を行った研究で、感動詞を独り言でも発することがあるかどうかという聞き手の存在の必要性の有無に着目して、「対他的」と「対他的でない」に二分している。情動的感動

詞は、「対他的でない」感動詞の下位分類の一つである。一方、楊（2018）は、日本語と中国語の感動詞の対照という目的から感動詞の機能に着目し、感動詞を感情表出、聞き手への働きかけ、話し手の認識の変化という三つに分類した。森山（1996）と楊（2018）の分類の枠組みは異なるが、「情動的感動詞」と「感情表出の感動詞」は、いずれも内側からまたは外的なのなんらかの刺激を受け感情を表出する感動詞である。本研究の感情表出の感動詞の定義は、楊（2018）の分類に基づくものである。

感動詞の研究方法について見ると、森山（1996）をはじめ従来多く見られるものは研究者の内省による考察である。内省による考察は、研究者の鋭い洞察力で、典型的な感動詞を深く掘り下げて分析することに長けている。一方近年では、大規模な話し言葉コーパスの構築により、日常会話で見られる感動詞の網羅的な分析も見られるようになった（柏野 2019）。柏野（2019）は、『日本語日常会話コーパス』（CEJE）モニター公開版に見られる応答表現を分析し、「肯定・否定の反応を示す感動詞」と「感情の反応を示す感動詞」の二つに分類して生じた感動詞の集計を行った。日常会話コーパスを用いた研究では、内省ではあまり注意が向けられないような感動詞¹を文脈とともに提示し分析することにより、感動詞の使用実態の全体像を俯瞰できる。

これまでの母語場面の感動詞の研究は音声による発話を対象とした研究がほとんどであり、LINE チャットにおける感動詞に言及した研究は、管見のかぎり落合（2018）のみである。落合（2018）は LINE やブログ、実況動画などの電子媒体に見られる「文字で書かれた『フィラー』」の調査が目的であり、分析対象のフィラーは、感情表出の感動詞のほか、相づち詞、応答詞なども含む。落合（2018）では、LINE では特に対人関係に関わる機能を意図してフィラーが用いられやすいという指摘にとどまり、LINE における感動詞の特徴についての指摘はない。

次に接触場面について見ると、近年中国人学習者の「意外」「驚き」を表す感動詞の混同について指摘した研究が見られる（姚 2020; 楊 2022）が、接触場面における感情表出の感動詞の使用傾向や、日本語母語場面との比較を試みた研究はない。

2.2. LINE チャットの特徴について

日本語母語場面の LINE チャットは、文字を介したコミュニケーションであるため、非言語情報が伝達されないということや、同期性が高いやりとりが可能であるなど、スマートフォンという使用するメディアの特性の影響を受け、対面とは異なるコミュニケーションの特徴を有することが指摘されている（西川・中村 2015; 岡本 2016; 岡本・服部 2017 他）。本節では、LINE チャットというコミュニケーションの特徴について焦点を当

¹ 柏野（2019）では、「あわ」「うげ」等多くの人にとって馴染みの薄い感動詞が実際には使用されていることが明らかになっている。

てた先行研究を概観する。

LINE のスタンプについて分析した岡本・服部 (2017) は、LINE の会話においては、「『スタンプと述語 (言葉) と記号』という共通の構造を踏襲することを通して、参加の組織化」が行われていると指摘する (p. 143)。岡本 (2016) は、感動詞、擬態語・擬声語、感嘆符・疑問符等の表現要素やスタンプ等を駆使した「相互行為を通して『楽しさ』や『のり』の『遊び』のコミュニケーション空間が創出される過程を報告した」(p. 234)。また、西川・中村 (2015) は LINE では、高速のやりとりと間の空いたやりとりの両方に対処できること、早い返信を可能にする「分割送信」や話題の輻輳、スタンプ等ビジュアル的な要素や感情表現の多用などを挙げている。

一方、接触場面の LINE チャットの研究については、特定の発話行為に焦点を当てた研究 (中井ら 2018 他) や、会話参加者間の相互行為に注目し、相づちについて調べた研究 (倉田 2018; 2021; 2022)、スタンプの役割を指摘した研究 (岡本 2020) が見られる。本研究の目的から、1 対 1 の LINE チャットの会話における相互行為に注目した倉田 (2018, 2021, 2022) について概観する。

日中接触場面における相づちの機能と送信方法を分析した倉田 (2018) では、常に分かりやすさを優先して送信方法を変えない非母語話者に対し、母語話者は分かりやすさと素早い反応のどちらかをより優先するため、場面に応じて送信方法を変えることが指摘されている。また、日韓接触場面とそれぞれの母語場面に焦点を当てた倉田 (2021, 2022) は、接触場面の日本語母語話者と韓国人非母語話者の使用する相づちの形式や送信方法を分析している。倉田 (2021) では、日韓接触場面の非母語話者は、会話を遮らない「えー」、「うん」などの感声的表現を母語話者より多く用い、母語話者は、「うそ」、「本当？」などの概念的表現を非母語話者より多く用いているという。会話に積極的な関わりを示す共話的な特徴を持つ日本語母語話者と話し手の発話を遮らない対話的特徴を持つ韓国人日本語非母語話者、という両者の異なる会話のスタイルが示唆された。また倉田 (2022) では、接触場面の日本語母語話者の相づちの送信方法は日本語母語場面と異なり、韓国語母語話者により近いという結果が見られ、接触場面では、日本語母語話者は韓国語母語話者のスタイルに合わせていると指摘している。

以上概観したように、日本語を媒介語とした LINE チャットの研究によって、スタンプなどのビジュアル的な要素や感動詞、記号類など様々な感情表現を駆使した相互行為の実態が徐々に明らかになってきた。また、相づちの研究から日本語母語場面と日韓接触場面の LINE 会話の様相が異なることは垣間見ることができる。しかし接触場面の LINE チャットの研究の蓄積はまだ少ない。そこで、本研究では、感情表現の一つである感動詞を取り上げ、日本語母語場面と日韓接触場面の分析を通して、LINE というメディアを介した異文化間コミュニケーションの特徴の解明を目指す。

3. 目的と方法

3.1. 目的

本研究では、日本語母語場面と日韓接触場面の LINE チャットにおける感情表出の感動詞について、各場面で生起する感動詞を整理し、①感動詞のバリエーションはどのようなものか、②両場面において多用する感動詞にどのような特徴が見られるか、③片方の場面にしか見られない感動詞の特徴的な使用はあるか、という 3 点の分析を通して、両場面における感動詞使用の異同について明らかにすることを目的とする。

3.2. 研究方法

本研究では、日本語母語場面（以下日母とする。）と日本語使用の日韓接触場面（以下日韓とする。日韓の日本語母語話者を JS、韓国語母語話者を KS とする。）の 1 対 1 の女性の友人同士の LINE チャットの会話履歴をデータとした。データの収集時期は、2016～2018 年である。データの協力者に、親しい友人との会話について直近からさかのぼり 300 送信分以上のチャット履歴の提供を依頼し、データを収集した。² 自然会話であるため、会話の状況や、話題のコントロール等は一切行っていない。収集時に参加者は、日母 1 名、日韓の JS3 名が社会人であり、他は全員大学生または大学院生、専門学校生である。平均年齢は日母 21 歳、JS22 歳、KS23 歳である。日韓に 26 歳 (JS) と 36 歳 (KS) のペアが 1 組いたため、平均年齢が高くなっている。このペアは二人とも大学院生であり、やりとりの様相や感動詞の使用等について、他と大きく異なることはなかったため、データとした。KS の日本語のレベルは上級以上である。全員交換留学等日本滞在経験を持ち、調査時に KS を担当する日本語教師が上級以上と判断した。日本語能力を示す資格等については、日本語能力試験 (JLPT) N1 取得者は 2 名、N2 取得者は 2 名、JPT スコア所持者³ は 1 名である。

分析対象は、日母 10 組 (300 送信分/組)、計 3000 送信分、日韓 10 組 (300 送信分/組)、計 3000 送信分である。分析は、まず、楊 (2018) に基づき、感情表出の感動詞の認定を行う。認定は、本稿の筆者 2 名がそれぞれに感情表出の感動詞を認定し、その後、付き合わせて確認した。解釈に揺れが生じた場合は、協議して決定した。次に、認定した感動詞の形式の分類を行い、日母と日韓の生起数を分析する。その際、感動詞の表記の違いについては、母音の引き延ばし方が異なるもの、または声門閉鎖音を伴うものは、同じ

² 本研究のデータは、収集方法等について研究倫理審査を受けており、個人情報に関しても細心の注意を払っている。また、協力者全員にデータ提出時に書面にて承諾書を提出してもらった。

³ JPT スコア所持者のスコアは 990 点満点中 815 点である。JPT の 660 点以上は JLPT の N1 に相当する (JPT 日本語能力試験ホームページ <<https://www.jptest.jp/about/jlpt.php>> (2022 年 11 月 10 日最終閲覧))。

感動詞の異形態とする。

分析方法は、談話分析の手法を用いて、生起した感動詞を整理し、日母と日韓それぞれの使用傾向の全体像を示したうえで、両場面の使用の特徴を感動詞の生起するやりとりの質的な分析を通して明らかにしていく。

4. 結果と考察

4.1. 感動詞の生起数及びバリエーションについて

生起した感動詞の形式について分析した結果、計 35 種類の感動詞が見られた。それらのうち、両場面で共通して生起したものは 11 種類にとどまり、残りの 24 種類の感動詞については、どちらか一方の場面のみに見られ、日母のみに見られたものは 14 種類、日韓のみに見られたものは 10 種類である。母音の引き延ばしの有無や長音のバリエーションの違うもの、促音が挿入・付加されるものなどを異形態とみなして、同じ種類とし、異形態がある場合は、最も短い形式で示すことにした。また、平仮名と片仮名表記の両方の表記が見られた場合は、同じ種類とするが、表で示す際には両方を示す。なお、感動詞に付加される「？」や「!」、「…」などの記号類は、イントネーションや音声の強さなどを伝える機能を持つと考えられるが、表 1 と表 2、表 3 では生起した感動詞の種類を示すため、これらの記号類は省くことにした。

計 35 種類の感動詞を、両場面ともに見られた感動詞（表 1）、日母のみに見られた感動詞（表 2）、日韓のみに見られた感動詞（表 3）に整理して、それぞれの生起数とともに以下のとおり示す。

生起した感動詞のバリエーションについては、日常会話でよく用いられる感動詞から、普段の会話ではほとんど使用されない馴染みの薄い感動詞まで、多種多様な感動詞が見られ、LINE チャットにおける感動詞の表記の自由度の高さが窺われる。バリエーションについて、日母と日韓の JS と KS に共通した特徴として、以下の 2 点が指摘できよう。1. チャットの送り手は、感動詞の表記方法を工夫して、音韻的特徴を詳細に表現し、感情を微細に伝えている。2. チャットの送り手は、音声会話での感動詞の使用の模写にとどまらず、漫画等の影響を受けながら、表出する気持ちや文脈に合わせて感動詞を創造的に用いる。

表1 両場面ともに見られた
感動詞

	日母	日韓		
		計	内訳	
			JS	KS
ああ	4	4		4
あれ	1	3	2	1
いえい	1	1		1
イエイ	1	1		1
いや	8	2	1	1
イヤ	1			
うわ	3	5	1	4
え	24	22	10	12
お	25	16	11	5
きゃ	2			
キャー		1		1
は	5	3	2	1
わ	4	6	5	1
わーい	5	1	1	
計	84	65	33	32

表2 日母のみに見られた
感動詞

	日母
あいちゃ	1
あら	1
いえあー	1
う	4
うううあう	1
うえいうえい	1
ウキヤキヤキヤキヤ	1
うひょ	1
ヒイイイ	1
びえ～	1
ふあ	1
ふお	1
わお	2
ん	3
計	20

表3 日韓のみに見られた
感動詞

	JS	KS
あわわわわ		1
おああお	1	
おほ		1
ちえ		2
ふん	2	
へ		5
ほ		2
ほええええ		1
ほひ		1
もう	1	
計	4	13

まず1. 表記方法の工夫について考察する。音声会話でよく見られる「え」と「お」を例に挙げると、「え」は、「えっ」、「えええ～～～」、「ええええええええ～」、「お」は、「おお」、「おー」、「おおお」、「おっおっおう」、「おおおおお」等のように多くの異形態が見られる。音声会話の場合、音量やプロミネンスを調整したり、母音を引き延ばしたりすることにより感情の微細な変化が表現できるが、書記言語であるLINEチャットでは、そういった音韻的な特徴は、母音の繰り返しや長音を示す「ー」と「～」の使用、「!」「?」などの表記で伝えることができる。岡本(2016)は、長音を示す「～」と「ー」の使い分けで声の強さや柔らかさが表現されると指摘している。本研究のデータではそのほかにも、片仮名表記や、拗音以外の小文字表記、⁴ 語中、語末に声門閉鎖音を示す「っ」を挿入するなど、様々な工夫を施した形式が見られた。犬飼(2002)は、日本語の書記言語における片仮名表記については視覚的に浮き立たせる効果を持つと述べている。また田中・林(2016)は、促音や長音のような特殊拍の累加・挿入が「打ちことば」において程

⁴ 小文字の使用について、尾山(2016)では、視覚的效果、可読性向上にかかわるという仮説が提起されている。また、「くだけている親しい間柄という雰囲気」など女子大学生への聞き取り調査から得られた回答が紹介されている。

度の高まりを表出する技法として共有されており、促音はほぼ程度の高い場面にのみ使用されると指摘している。既存の定着した感動詞を用いる場合でも、規範的に定着した表記形式（田窪 2005）をとらずに、送り手が会話の文脈に合わせ、その場その場で感動詞の表記を工夫していると言えよう。会話例 1 と会話例 2 は、「お」の二つの形態「お」と「おおおおー」が用いられた例である。なお、会話例に示した名前は全て仮名である。

会話例 1 では、1 点足らずに再試験を受けることになった美穂から、「明後日行くー！」というメッセージを受けて、香奈は「お、すぐだね」と返信した。ここでは、美穂の「明後日行く」ことに対して「お」で軽い驚きを示しながら受け止めていることがわかる。

会話例 1【日母】

- 1 4:48 美穂 もともと自信なかったけどあと 1 点だとなんとも
言えない気持ちになりますね ...
- 2 15:05 香奈 まじか
- 3 15:05 香奈 あと一点は辛い
- 4 15:06 香奈 また受けに行くの？
- 5 16:05 美穂 明後日行くー！
- 6 21:04 香奈 お、すぐだね
- 7 21:04 香奈 ふぁいとだ ㊦

会話例 2 では、朝子は深夜（0:59）によりやく完成した原稿をハユンに送る（1-3 行目）。五つの「！」と「涙」は朝子の高ぶった気持ちを表している。それを受けたハユンは、長音化の二つの技法を併用した異形態「おおおおー！」（4 行目）を送り、朝子の気持ちに合わせて、自らの驚嘆の気持ちの強さを示した。

会話例 2【日韓】

- 1 0:59 朝子 終わりました！！！！！！
- 2 0:59 朝子 涙
- 3 1:00 朝子 今送ります！！
- 4 1:00 ハユン おおおおおー！
- 5 1:00 ハユン おめでとうございます！

会話例 1 と 2 から、メッセージの送り手は、表出する感情の性質と強弱に合わせて、必要に応じて様々な異形態に変化させて感動詞を用いていることがわかる。

次に 2. 実際の音声の模写にとどまらない表記形式について考察する。チャットの送り手は音声的意味を理解しているとは言え、必ずしも音声を厳密に再現しているとは限らない。場合により、日常の音声会話では見られないような誇張した形式を用いることもある。例えば、「ウキャキャキャキャ」、「うっううううっ」（「う」の異形態）、「おっおっ

おう」「お」の異形態）等が見られる。感情の起伏の大きさを示す長音の累加、際立ちを示す片仮名表記や、「っ」の挿入と母音の引き延ばし（「ううううううっ」）、同じパターン「おっ」の繰り返しと語尾の小文字「う」の付加（「おっおっおう」）といった工夫により、送信者の驚き、感嘆など生起した感情の強さが一目で捉えられ、伝達される。しかし、『日本語日常会話コーパス』モニター公開版ではこれらの使用例は確認されず（柏野 2019）、日常会話でこれらを発するということが想像しがたい。本研究のデータに見られた音声に出にくい様々な感動詞は、前述した日本語母語話者に共有されている技法（田中・林 2016）を踏まえて産出されたものである一方で、単に話したように声を文字に置き換えただけではない、すなわち音声会話の単なる模写にとどまらないものであるということが示唆される。

馴染みの薄い感動詞の使用には、同じく書記言語である漫画などによる影響の可能性が考えられる。日母では「ふあ」、「ふお」、日韓では、KS による「おほ」、「ほええええ」、「ほひ」等が見られる。漫画やアニメではこれらの感動詞に類似したものの使用が見受けられる。例えば、漫画『名探偵コナン』には「ふああ」、「ふえ」⁵が見られ、また、少女漫画のキャラクターであるカードキャプターさくらの口癖が「ほえ」で、インターネットでは「ほえ顔」という表現もある。漫画やアニメで見られる日常会話では馴染みの薄い感動詞が、LINE でも用いられるようになったと考えられる。

4.2. 両場面において多用される感動詞について

感動詞の生起数について見ると、生起数が一桁以下のものがほとんどであるなか、日母と日韓両場面ともに「え」と「お」の生起数が多く、他の感動詞を大きく引き離している（表 1 参照）。ただし、日母では「お」が「え」よりわずかに多かったのに対して、日韓では、「え」の方が多かった。日韓における JS と KS 別の使用を見ると、異なる傾向が見られ、JS の場合、「お」と「え」の使用数に差がほとんどないのに対し、KS の場合「え」（12）の使用が「お」（5）の倍以上であることがわかった。以上の結果を踏まえ、以下 4.2.1 では、「え」と「お」の意味機能及び音声会話における使用傾向を概観したうえで、本研究で見られた日母と日韓の異なる傾向について考察し、4.2.2 では、「え」と「お」の反応の対象となる事柄をより詳細に比較しながら、両場面の使用の特徴を考察する。

4.2.1. 「え」と「お」の使用傾向について

「え」の基本的な意味は、相手の発話に対し「理解できなかった」、「信じがたい」という

⁵ この知見は、2021 年 11 月 20 日に行われた感動詞研究会における姚瑤氏の口頭発表「マンガにおける感動詞の表記について」によるものである。また、表現については、筆者らが『名探偵コナン Volume1』で実際に確認した。

気持ちを表出するものであり（田窪 2005: 19）、音声の長さ、高さ、上昇や下降の幅等異なる音韻的特徴によって、軽い意外な気持ちの表出から強い驚きの表出や、不満、苛立ちの表示など否定的な感情表出まで、様々な場面で使用される（富樫 2020）。一方の「お」は、同じく驚きを示すが、相手の発話から得られた「情報が予測を超えるものであったことを表明する標識」で、「多くの場合は肯定的な評価が下される」（田窪・金水 1997: 268）。

音声言語における感動詞を取り上げた複数の研究からは、「え」と「お」の使用頻度に差があり、「え」の使用頻度がより高いことが報告されている（山根 2002、柏野 2019）。対話におけるフィラーの分析結果では、「え／えー」の 76 件に対し、「お／おー」は 9 件であり（山根 2002: 153）、日常会話コーパスの分析結果では、感情表現の「えー系」の 2577 件に対し、「おー系」は 500 件であったという（柏野 2019: 373, 376）。⁶ 以上の音声言語を対象とした研究からは、対象とするデータの性質が異なり、一概には断言できないものの、音声会話において「え」の使用頻度が高いことが示唆された。

以上の音声会話における「え」と「お」の意味機能及び使用頻度の違いを踏まえて、日母と日韓の LINE チャットにおける「え」と「お」の使用傾向を検討したい。日母と日韓の JS においては、「お」の使用数が「え」よりわずかに多く見られ、音声会話での使用傾向と異なる結果が見られた。一方の KS の使用傾向は、音声会話に見られた「え」と「お」の使用頻度の差に比較的に近いと思われる。感情表現の使用は、場面や話題、情意的反応の対象となる事柄の影響を受ける。相手が言及した事柄が喜ばしいことなどポジティブなものが多ければ、「え」より「お」が産出されやすいと考えられる。そこで次では、日韓の KS と日母、日韓の JS の間に見られた「え」と「お」の使用傾向の違いについて、情意的反応の対象となる事柄の点から検討する。

4.2.2. 「え」と「お」の反応の対象となる事柄の比較

4.2.2.1. 反応の対象となる事柄の三つのカテゴリー

本節では、「え」と「お」の反応の対象となる事柄を「肯定的な事柄」「否定的な事柄」「両方の可能性有」という三つのカテゴリーに分類し、日韓の KS と日母、日韓の JS の間に見られた「え」と「お」の使用傾向の違いが情意的反応の対象となる事柄の肯定的・否定的というタイプの違いによるものか否かという観点から考察する。「肯定的な事柄」は、相手が授業に間に合ったことや、相手が自分のあげた誕生日プレゼントを気に入ってくれたことなど、「相手、または送信者にとって好ましい事柄」を指す。一方、「否定的な事柄」は、クレジットカードが上限に達したことや、送信者の誘いに相手が否定的な反応を見せた場合など、「相手または送信者にとって好ましくない事柄」を指す。また、タレントの

⁶ 柏野 (2019) では、「えー系」は「ええ」と「えっ」を含み、「おー系」は「おお」と「おっ」を含む。ただし、「ええ」の場合、肯定否定の反応と感情の反応の両方を含む。

ゴシップや授業に対する評価といった事柄について、好ましいか否か、両方の受け止め方が可能な場合は、「両方の可能性有」とした。以上三つのカテゴリーに分類した結果を表4に示す。

表4 「え」と「お」の反応の対象となる事柄の比較

	肯定的な事柄		否定的な事柄		両方の可能性有	
	え	お	え	お	え	お
日母	2	13	16	0	6	12
日韓の JS	4	5	3	0	3	6
日韓の KS	3	2	5	0	4	3

表4を見ると、まず否定的な事柄に「お」が用いられないことがわかる。次に肯定的な事柄について見ると、日本語母語場面では、「え」より「お」が圧倒的に多く用いられるのに対して、日韓の JS と KS にはそのような傾向は見られない。前述のように、「え」は、さまざまな場面で使用されうるため、肯定的に評価できる事柄でも、ポジティブな評価のスタンスを明示しない「え」を用いることもできる。肯定的な事柄に対して用いる「え」と「お」の使用傾向から、日母と日韓に違いが見られ、日韓より日母のほうがより明示的に肯定的な評価のスタンスを示す傾向が見られたと言えよう。そして日韓の JS と KS の間には顕著な違いは見られなかった。

最後に「両方の可能性有」について見ると、日母と日韓の JS には共通して、肯定的ニュアンスを伴う「お」を用いる傾向が見られたのに対して、KS には「お」を多用する傾向は見られなかった。音韻的特徴が伝わらないチャットでは、「両方の可能性有」の場合における「え」は、肯定的な評価のスタンスを明示せず、事柄に対する送信者の価値評価の解釈を相手に委ね、場合によっては否定的な評価を下していると相手に受け取られる可能性も考えられる。そこで次では、「両方の可能性有」における「え」と「お」について、会話例を挙げつつ見ていきたい。

4.2.2.2. 「両方の可能性有」における「え」と「お」の使用傾向

以下では、「両方の可能性有」において見られた、日母及び日韓の JS と KS の「お」と「え」の使用傾向の違いを、会話例を挙げて詳しく考察する。会話例3では、日母の「お」が用いられた例を示し、会話例4では、日母の「え」が用いられた例を示す。また、会話例5では、日韓の KS による「え」が用いられた例を示す。

日母、JS ともに、「両方の可能性有」において、肯定的に評価する「お」を用いる場合が多い。日母の会話例3では、友達桜子のバレエの発表会後に、楽屋に誘われて行こうとしている直美が、桜子の親も楽屋に来ていることを知り、「おー！そうなのね！そしたら、悪いわ笑」(7行目)と桜子の親が来ていることに対して驚きの反応を示した後、行く

ことを躊躇する気持ちを伝えた。「そしたら」は、その前後の事態が因果関係にあることを示し（日本語記述文法研究会 2008）、ここでは、「(行くのは) 悪いわ」という直美の気持ちは（桜子の）「親が楽屋にいる」ことによって引き起こされることを示している。直美は、いったんは楽屋に行く意志表明をした（5行目）が、「親がいる」という思いがけない新情報によって、楽屋に行くことを取りやめようとしているという気持ちの変化を示している。ここで、直美は「おー！」を用いることによって、行動変更の原因となる「親がいる」ことについて、意外だったが肯定的に捉えているという気持ちを伝えた。

会話例3【日母】「両方の可能性有」における「お」の使用

- 1 11:30 直美 会えたら良かったのだけど
- 2 11:30 桜子 今いるで、楽屋！
- 3 11:30 桜子 ○○先生帰ったよ！
- 4 11:30 直美 うん、怖かった笑
- 5 11:31 直美 まじ？それならいこうな笑
- 6 11:31 桜子 親はいるが笑
- 7 11:32 直美 おー！そうなのね！そしたら、悪いわ笑
- 8 11:33 桜子 いや、知り合いじゃないか笑

チャットでは音韻的特徴や表情が伝わりにくいため、否定的な感情表出と解釈される可能性が生じかねない時には、「え」よりも、対象となる事柄を肯定的に捉えるニュアンスを伝える「お」を用いることで、相手への共感を示すことができ、共感構築的な会話展開となる。4～8行目の発話に「笑」が付加されていることから参加者が発話時の表情を示す等共感構築的な会話を志向していることが読み取れる。

次に「両方の可能性有」の事柄に対して「え」を使用した日母の例を見る。会話例4では、話題は夏美から利奈へのタレントの画像の送信により開始される。夏美のメッセージに対して、利奈は、異なる形態の「え」を送り続けること（3, 7, 8行目）によって、強い驚きの反応を示している。ここで見られた「え！！！！？」や「えええ～」は送り手の驚きを示してはいるものの、話題に対して肯定的に評価しているか否かについては明確ではない。また、驚きの対象となるタレントの私生活という話題について、仮に三つの「え」が不満など否定的評価を伴うと解釈されても、第三者のことを話題にしているため、利奈に不快な思いをさせることはないと考えられる。

会話例4【日母】「両方の可能性有」における「え」の使用

- 1 17:02 夏美 [画像]
- 2 17:03 夏美 ってこと？笑
- 3 18:21 利奈 え！！！！？

- 4 18:21 夏美 果たしてこれはどういうことだろう
 5 18:22 夏美 友達に聞いてみたところ
 いつかパリに行って会いに行くよ
 6 18:22 夏美 という意味らしい
 →7 18:22 利奈 えええええええ～～
 →8 18:23 利奈 えええ～～、、
 9 18:23 夏美 わたしもびっくらしてるなう

次に、日韓のKSが、「両方の可能性有」の事柄に、「え」で反応している例を見る。会話例の直前では、北京に滞在している詩織は、韓国から遊びに行くソユンに中国ではLINEを使うためにVPNをダウンロードする必要があると伝えた。それに対して、ソユンは「探して見る」と返信し、また「中国は大変だね」とコメントを送る。それに対し、詩織は慣れると便利とポジティブなコメントを返し、続いて「私来年も中国に住むかも」（3行目）と話題転換を行った。それに対して、ソユンは「えっ！？中国で就職したの？！」（5行目）と驚きを示し、「住む」理由を推測し質問した。「中国に住む」ことは、肯定的にも否定的にも捉えられるため、ここで「えっ！？」の使用によって、ソユンの「意外・驚き」の感情が伝わるが、事柄に対する価値評価は受け手の解釈に委ねられる。ここでもし「おっ、中国で就職したの？！」と「お」を用いた場合、予想していなかったことではあったが中国に住むという詩織の選択を肯定的に評価していることが相手に伝わるが、ソユンは「え」を使用しているため、「中国に住む」ことに対し、「信じがたい」という気持ちを伝え（田窪 2005）、詩織の発話を驚きで受け止めているだけで、共感を示してはいない。

会話例5【日韓】「両方の可能性有」における「え」の使用（KS）

- 1 22:04 ソユン そうだね！探して見る！ありがとう💖 中国は大変だね🤔
 2 22:11 詩織 慣れるとすごく便利なんだけどね🤔
 3 22:11 詩織 私来年も中国に住むかも🐼🇨🇳
 →4 22:13 ソユン えっ！？中国で就職したの？！
 5 22:17 詩織 もう一年だけ仕事しようと思ってる😓
 6 22:17 詩織 就活なう！

会話例4と会話例5は、いずれも「両方の可能性有」の事柄に「え」を用いて反応する例であるが、相手に直接関わらない事柄である会話例4と異なり、会話例5では中国に住むという相手に直接関わる事柄に対する反応である。この点について、「両方の可能性有」で「え」を使用している日母の6例、日韓JSの3例、KSの4例（表4参照）を対象に、相手に直接関わる事柄か否かを調べた。その結果、日母では、「え」が用いられた例

は全て相手に関わらない事柄であったのに対して、日韓では、JS の 3 例全て、KS の 4 例中 3 例が相手に関わる事柄であった。つまり、「両方の可能性有」で「え」を用いて反応する場合、日母では、相手に関わらない事柄に限るという傾向が見られたのに対し、日韓では、そのような傾向は見られず、JS、KS とともに相手に直接関わる事柄に「え」を用いている。

以上、日母と日韓両場面において多く生じた「え」と「お」の使用傾向を、反応の対象となる事柄の詳細な分析を通して考察した。日母では、肯定的な事柄だけでなく、肯定的・否定的と両方の反応が可能な文脈でも「お」を選好して用いること、また「え」は相手に直接関わらない事柄に限定して用いられることが明らかになった。チャットでは音韻的特徴が伝わりにくいため、日母における「お」の多用は、参加者がメディアの特性に合わせて調整した結果であり、またポジティブな反応を示すことにより共感構築的な会話展開を志向する日本語母語話者の会話のスタイルの現れだと考えられよう。一方 KS は、「肯定的」と「両方の可能性有」のいずれにおいても、「お」をより多く用いる傾向は見られなかった。すなわち、日母で見られた調整は、KS には見られなかった。さらに、日韓の JS においては、肯定的な事柄において、「お」を多く用いる傾向が見られず KS の使用傾向に近いが、「両方の可能性有」の場合、「え」より「お」を多く用いるという日母の使用傾向に近いことがわかった（表 4 参照）。ただし、「え」の反応の対象となる事柄が「両方の可能性有」で相手に関わるか否かについては、「え」ではなく「お」を選好するという日母で見られた使用傾向は見られなかった。すなわち、JS は部分的にメディアの特性に合わせて調整をしているが、日母ほど顕著ではなかった。

4.3. 片方の場面にのみ生じた感動詞について

片方の場面にのみ生じた感動詞を見ると、日母にのみ見られたのは、4.1 で述べたような新規的な感動詞で、その場で創造的に使用されたものが多い。一方、日韓でのみ見られたもののうち、「へ」、「ちえ」、「ふん」の使用に両場面では異なる傾向が見られた。これらは、日常会話で定着している感動詞で表記の形式も含め新規的とは言えないものであり、日韓では複数見られたが日母では見られなかった。

まず、「へ」について検討する。「へ（一）」は日常会話で多用される感動詞であるにもかかわらず、本研究では日母では使用が見られなかった。それに対し、日韓では 5 回見られ、いずれも KS によるものであった。音声会話において、「へー」は、驚きや感心する気持ちを表す場合もあれば（森山 2015; 楊 2022）、話題を終わらせるリソースとして用いられる場合もある（関 2020; 楊 2022）。楊（2022）は、会話において、意外性のない事柄への「儀礼的な評価的スタンスの表出」（p. 212）から納得した驚き、強い驚きまで様々な場面で用いられることが、会話における「へー」の生起頻度の高さにつながると指摘している。このような「へー」の異なる機能の認識はその音韻的特徴によって可能である

(Mori 2006; 森山 2015)。しかし、チャットでは送り手の表情や音韻の情報等が伝わらないため、様々な解釈が可能な「へー」は、場合によって相手の話に関心がなく話題を終らせようとしていることを意図的に示しているものだと受け取られてしまう恐れもある。そのため、日母及び日韓の JS による「へー」の使用が見られなかったのではないかと推察される。

次に不満など否定的な感情を示す「ちえ」、「ふん」の使用について検討したい。「ちえ」は KS によって、「ふん」は JS によって使用された。「ちえ」は「やや下品な表現で、男性がくだけた日常会話で用いる」(浅田 2017: 144) 感動詞で、感情を吐き出すニュアンスがあり、「ふん」は、「対象を軽視・侮蔑している暗示がある」(浅田 2017: 217) という。⁷ 本研究のデータである女性友人同士の会話におけるこれらの感動詞による否定的な感情表出は注目に値する。以下では、「ふん」が生起した会話を取り上げ、会話の流れを追って詳細に考察する。

会話例 6 の直前では、杏子は英語ができないという悩みをヨナに伝え、ヨナから留学という提案が出された。それを受けて杏子は、「留学しかないのか」「はたして道はないのかな」(1-3 行目) と提案の受け入れを保留した後、ヨナに英語の先生になるよう頼む (5, 7 行目)。5 行目では「なってほしい」と願望の表出という形式で依頼していたが、7 行目では普通体から丁寧体へとスピーチレベルシフトをして、「なってください」とより明確な依頼表現で再度メッセージを送信した。それに対し、ヨナは「お断りします」と杏子の丁寧体の依頼 (7 行目) に合わせ、普通体から謙譲表現へスピーチレベルシフトをして断った。それまでの杏子とヨナのやりとりは、一貫して普通体で行われており、このペアのトーク履歴全体を見ても丁寧体が見られたのはこの箇所のみである。ここでは、依頼に対する断りという対立の構図が見られた。ただし、この対立は、丁寧体という借り物スタイルへのシフトという合図 (大津 2004) によって開始されたところから、「遊び」としての対立であると理解できる。

続いて、上述の 9 行目のヨナの「お断りします」という明確な断りに対して、杏子は引き下がらずに「なんで」(10 行目) と断りの理由を尋ねる。ヨナから「むりむり」(11 行目) と再度の断りを受けても「なんで」(12 行目) と食い下がり、さらに「やって」と頼み続ける。それに対して、ヨナは「むり」と断り続けている。

チャットであるため明示的な韻律操作を用いることはできないが、対立を際立たせる直接的な断り表現「むりむり」、言葉の繰り返し(「むり」(11, 16 行目) と「なんで」(10, 12 行目)) という語彙の響鳴 (高梨 2016) が見られ、ここでも「冗談」または「遊び」として対立の合図が立て続けに繰り出されていた。

⁷ 「ふん」と相手の話にさほど興味を示さない「生返事」を示す「ふーん」には明確な違いがある (浅田 2017)。日韓で見られた二例は、いずれも「ふん」だった。

ここで一つ確認しておきたいのは、スピーチレベルシフトした依頼の発話（7行目）は、「冗談」と「遊び」の会話を開始するきっかけとなっているが、このような会話が必ずしも「遊びとしての対立」へと展開していくとは限らないということである。ヨナの「お断りします」という模倣と共演（大津 2007）により、7行目の依頼が「遊び」の文脈の誘い水としてヨナに認識されていることが杏子に伝わり、その後の二人の共演により、「冗談」と「遊び」のフレームは共同で構築されていく。そしてこの文脈における「ふん」の使用は、あからさまな不満を表明するものである。ここでは既に遊びとしての対立のフレームが構築されており、「ふん」はこの状況に対する冗談として用いられる否定的評価（張 2017）⁸を表しており、文脈化された遊びのフレームの確認と維持の合図としての機能を果たしていると言える。

会話例6【日韓】

- 1 12:53 杏子 留学しかないのか
- 2 12:56 杏子 はたして
- 3 12:56 杏子 道はないのかな
- 4 12:56 ヨナ ないかなあ
- 5 12:56 杏子 英語の先生になってほしい
- 6 12:56 杏子 
- 7 12:56 杏子 私の先生になってください
- 8 12:57 ヨナ あ
- 9 12:57 ヨナ お断りします
- 10 12:57 杏子 なんで
- 11 12:57 ヨナ むりむり
- 12 12:57 杏子 なんで
- 13 12:57 杏子 
- 14 12:57 ヨナ あ
- 15 12:57 杏子 やって
- 16 12:57 ヨナ むり
- 17 12:57 杏子 ふん
- 18 12:57 ヨナ 日本語
- 19 12:57 杏子 
- 20 12:57 ヨナ 母語じゃないし

※ 6, 13, 19 行のメッセージはいずれもスタンプである。

⁸ 日本語と韓国語の母語場面の友人間の会話を分析した張（2017）では、不同意と否定的評価の発話は冗談として用いられることが多く、文脈化の合図として用いられていると指摘されている。

5. 総合的考察

本章では、上記の分析結果に基づき、日母と日韓における感動詞使用の共通点と相違点を会話への「関与」のしかたの観点から考察する。

本研究では、日母と日韓の両場面ともに、日常生活でよく用いられるものから、漫画・アニメからの借用と思われる新奇的なものまで、様々な感動詞が用いられていることが明らかになった。音声会話で用いられる韻律の変化やオーバーラップ、リズムカルな発話の調整等、会話への高い関与を示す要素が、書記言語である LINE チャットでは伝達されにくいいため、LINE チャットの参加者は、感情表出の感動詞を用いて、相手の発話への情意的反応を示したり、自らの気持ちの動きを微細に伝えたりしている。これらの感動詞は、会話への高い関与を示す役割を持つと言える。つまり日母及び日韓の両場面ともに、感動詞は、チャットの会話への高い関与を示す文脈化の合図の一つとして機能していると考えられる。

次に両場面で見られた相違点について検討する。日母では、より肯定的なニュアンスが伝わる感動詞を使用する傾向が見られたが、日韓ではそのような傾向が見られず、明らかに否定的な感情を伝える感動詞の遊戯的な使用が見られた。

日母では、驚きを示す感動詞の選好に日常会話と異なる使用傾向が見られ、肯定的な評価を伴う「お」が多く使用されている。このような「お」の多用は、音韻的な要素の伝達が欠如する LINE チャットというメディアに合わせた調整であり、LINE の会話への高い「関与」を示す「文脈化の合図」の一つと見ることができよう。特に相手に直接関わる事柄について、肯定的な感動詞を選好する傾向が強く見られた。肯定的な感動詞の使用は、会話への積極的な関与を示すと同時に、共感構築的な会話展開への志向というメタメッセージ (Tannen 1989) も伝えることになる。⁹ 日母において、参加者は互いにこうした肯定的な感動詞を含む文脈化の合図を出し続けることにより、共感構築的な会話スタイルが形成され、維持されていると考えられる。

一方日韓では、解釈の幅が広く、無関心とも受け取られかねない感動詞「へ」の使用や、肯定的な感動詞「お」の使用頻度の低さから、KS は、日母とは異なり、LINE チャットというメディアの特性に応じた調整をあまり行っていないことがわかる。さらに、否定的な感情を表す感動詞の遊戯的な使用も見られた。KS は、様々な感動詞の使用によって、情意的な反応を示し、会話への高い関与を示しているが、肯定的な感動詞を多用して共感構築的に会話を展開するという合図を出し続ける日母とは異なる。むしろ肯定的・否

⁹ 本研究では日母に否定的な感情表出の感動詞による遊戯的な使用が見られなかったが、遊戯的な言語使用の場面そのものが全く見られなかったわけではない。否定的な感動詞が遊戯的な対立に用いられない理由は今後の課題となろう。

定的とどのような反応でも気兼ねなくできる会話であるという合図を行っている。それに対し JS は、肯定的なニュアンスが伝わる感動詞を多用する傾向が見られ、日母と同様に共感構築的会話展開への志向を示す文脈化の合図を行っているという特徴が見られる一方、相手に関わる事柄か否かによる感動詞の使い分けは見られず、また、否定的な感情を表す感動詞の遊戯的な使用も見られた。つまり JS の会話への関与を示す文脈化の合図は、日母と KS の両方の特徴を持ち合わせていると考えられる。日韓接触場面において、JS は共感構築的会話展開への志向を示しつつ、自らの振舞いを調整し、気兼ねなくやりとりする会話への志向も示している。否定的な感動詞「ふん」はそういった文脈化の合図の一つとして捉えられる。

以上のように本研究では、接触場面の JS は、母語場面のスタイルを一部維持しつつ相手に合わせて調整していることが窺われた。しかし、LINE チャットというメディアを介したコミュニケーションであるがゆえに、表情等の非言語・パラ言語情報の欠如から、相手の文脈化の合図を適切に解釈できず、誤解をする可能性も考えられる。KS の「へ」や「え」等の感動詞の使用により、やりとりが JS の期待した会話展開とならず、コミュニケーションへの満足度が下がる可能性や、遊びの文脈が構築されていない場合に見られる否定的な感情表出に JS が不快感を覚えてしまう可能性も考えられよう。日本語教育や異文化間教育における教育的示唆としては、異なる感情表出を愛好する韓国語母語話者または日本語母語話者がいることに気づき、互いの違いを理解し、必要に応じて調整する力を身につけることがよりよい異文化間コミュニケーションにつながるということを、日本語母語話者と韓国語母語話者の両方に対して意識させることの重要性が挙げられよう。また、メディアを介した異文化間コミュニケーションが増えていく中、日本語教育における「文字による会話の教育」が今後、益々必要となる。本研究はその基礎研究として位置付けることができると考える。

6. 今後の課題

「ことばが特定のメディアで使われるとき、そのメディア特性が何らかの形で影響を及ぼす」(三宅 2011: 22) という指摘があるが、本研究では、感情表出の感動詞の分析を通して、文字チャットというメディアの影響を具体的に示すことができた。一方で、日韓接触場面においては、メディアの影響を受けつつも、日本語母語場面とは異なる特徴も見られ、そこには接触場面の特性による影響が推察される。今後は、韓国語母語場面も分析対象とし、韓国語母語場面との比較を通して日韓接触場面の感動詞の使用傾向を追究していきたい。また本研究は、感情表出の感動詞に焦点を当てたが、今後、スタンプや絵文字等ビジュアル的な感情表現の分析も取り入れ、日本語母語場面及び異文化間の LINE コミュニケーションについてさらなる解明を図りたい。

参考文献

- 浅田秀子. 2017. 『現代感動詞用法辞典』東京：東京堂出版.
- 関玲. 2020. 「一連の連鎖全体を収束させる『へー』」, 『社会言語科学』22(2)、30-45.
- Gumperz, J. J. 1982. *Discourse Strategies*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 犬飼隆. 2002. 『文字・表記探求法』東京：朝倉書店.
- 張允娥. 2017. 「日韓同性間の会話における不同意・否定的評価の相互行為—ジェンダーとボライトネスの観点からみる対立と冗談—」, 『阪大日本語研究』29、101-128.
- 柏野和佳子. 2019. 「『日本語日常会話コーパス』モニター公開版に見られる応答表現」, 『言語資源活用ワークショップ2019 発表論文集』4、368-380.
- 倉田芳弥. 2018. 「接触場面の LINE の会話における相づちの機能—日本語母語話者と非母語話者の比較から—」, 『人文科学研究』14、83-97.
- 倉田芳弥. 2021. 「日韓接触場面の LINE チャットの会話における相づちの表現形式—日本語母語話者と非母語話者の比較から—」, 『聖学院大学論叢』33(1・2 合併)、37-52.
- 倉田芳弥. 2022. 「日韓接触場面の LINE チャットの会話における相づちの送信方法の分析—相づちの出現箇所に着目して—」, 『拓殖大学日本語教育研究』7、1-26.
- 三宅和子. 2011. 「メディア言語研究の意義と日本語教育への応用可能性」, 『日本語教育』150、19-33.
- Mori, J. 2006. “The Workings of the Japanese Token Hee in Informing Sequences: An Analysis of Sequential Context, Turn Shape, and Prosody.” *Journal of Pragmatics* 38, 1175-1205.
- 森山卓郎. 1996. 「情動的感動詞考」, 『語文』65、51-62.
- 森山卓郎. 2015. 「感動詞と応答—新情報との遭遇を中心に」, 友定賢治（編）『感動詞の言語学』、53-81、東京：ひつじ書房.
- 中井好男・船橋瑞貴・副田恵理子・向井裕樹. 2018. 「LINE での日本語母語話者からの誘いを非母語話者はどう断っているか—『再誘い』を誘発する要因とその背景にある意識—」, 『国立国語研究所論集』14、169-192.
- 日本語記述文法研究会（編）. 2008. 「現代日本語文法 6 第 11 部複文」東京：くろしお出版.
- 西川勇佑・中村雅子. 2015. 「LINE コミュニケーションの特性の分析」, 『東京都市大学横浜キャンパス情報メディアジャーナル』16、47-57.
- Norricks, N. R. 1994. “Involvement and Joking in Conversation.” *Journal of Pragmatics* 22, 409-430.
- 落合哉人. 2018. 「電子媒体における『フィラー』」, 『筑波日本語研究』22、75-104.
- 岡本能里子. 2016. 「雑談のビジュアルコミュニケーション—LINE チャットの分析を通して—」, 村田和代・井出里咲子（編）『雑談の美学：言語研究からの再考』、213-236、東京：ひつじ書房.
- 岡本能里子. 2020. 「LINE スタンプが拓く多言語社会—新たなビジュアルコミュニケーションの可能性—」, 柿原武史・上村圭介・長谷川由起子（編）『今そこにある多言語なニッポン』、39-51、東京：くろしお出版.
- 岡本能里子・服部圭子. 2017. 「LINE のビジュアルコミュニケーション—スタンプ機能に注目

- した相互行為分析を中心に—」、柳町智治・岡田みさを（編）『インタラクションと学習』129-148、東京：ひつじ書房。
- 大津友美. 2004. 「親しい友人同士の会話におけるポジティブ・ポライトネス：『遊び』としての対立行動に注目して」、『社会言語科学』6(2)、44-53.
- 大津友美. 2007. 「会話における冗談のコミュニケーション特徴：スタイルシフトによる冗談の場合」、『社会言語科学』10(1)、45-55.
- 尾山慎. 2016. 「『小文字表記』という文字コミュニケーションとその『位相』」、『日本語学』35(6)、56-67.
- 高梨博子. 2016. 「遊びのフレームにおける間主観的個性の形成に関する考察—スタンスターキングの視点から—」、『社会言語科学』19(1)、103-117.
- 田窪行則. 2005. 「感動詞の言語学的位置づけ（特集感動詞—未開拓の研究領域へ）」、『言語』34(11)、14-21.
- 田窪行則・金水敏. 1997. 「応答詞・感動詞の談話的機能」、『文法と音声』、257-278、東京：くろしお出版.
- 田中ゆかり・林直樹. 2016. 「『うちことば』におけるキブン表現：スマホ Web 調査に基づく程度差のある感覚形容詞の表現」、『語文』156、92-82.
- Tannen, D. 1989. *Talking Voices: Repetition, Dialogue, and Imagery in Conversational Discourse*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 富樫純一. 2001. 「情報の獲得を示す談話標識について」、『筑波日本語研究』6、19-41.
- 富樫純一. 2012. 「感動詞とコンテキスト」澤田治美（編）『ひつじ意味論講座6 意味とコンテキスト』、199-214、東京：ひつじ書房.
- 富樫純一. 2020. 「感動詞『ええ』の派生的用法について—苛立ち・不満を示す場合」、『日本文学研究』59、155-143.
- 友定賢治（編）. 2015. 『感動詞の言語学』、東京：ひつじ書房.
- 山根知恵. 2002. 『日本語の談話におけるフィラー』、東京：くろしお出版.
- 楊虹. 2018. 「映画における感情表出の感動詞の日中比較」、『人文：人文学会論集』42、25-34.
- 楊虹. 2022. 「初対面会話における感動詞『へー』『えー』の分析：中国語との対照から」友定賢治（編）『感動詞研究の展開』、189-217、東京：ひつじ書房.
- 姚瑶. 2020. 「中国人学習者における感動詞の習得状況に関する考察」、『早稲田日本語研究』29、13-24.